

していることで、実に作家・イラストレーター1090人によるサイン会が各スタンドで開催された。

日本からの招待作家の催しはいずれも大盛況であったが、とくに五味太郎氏と駒形克己氏によるイラスト・クリエイションのワークショップが大人気を博した。また、小・中・高生対象に行われた、いわむらかずお、藤野千夜および辻仁成各氏との対談に来た子供たちが、前もって作品を学校で読み、作家たちへの質問を準備していたため、作家の世界へと誘われる格好の機会となった。

12月1日には、「日本の児童書出版について」(パネリスト=小峰紀雄実行委員長<小峰書店>、吉田ゆりか<日本著作権輸出センター>、コリーヌ・カンタン<フランス著作権事務所>)、「日本の小出版社の立場から」(若月真知子<ブロンズ新社>、小西宏行<スカイフィッシュ・グラフィクス>ほか)、「マンガ探求」(細萱敦<川崎市市民ミュージアム>)をテーマにシンポジウムが開催された。

パリのジュンク堂書店も初出展し、日本関係図書の販売を行って7日間の会期中に約4万ユーロ(約500万円)の売り上げを達成した²⁷。

B | アジアの出版界

B-1 アジア出版界との協力

❖ ユネスコとの共同支援

1966年(昭和41)5月、ユネスコの主催による東京で開催された「アジア地域における書籍出版・配給に関する専門家会議」の結論にもとづき、69年3月29日、東京に「財団法人ユネスコ東京出版センター(TBDC²⁸)」が設置された。その準備として、アジア地域出版技術研修コースが67、68年の2年間、各2か月にわたり東京で行われた。第1回研修コースは10月25日から12月21日まで東京・青山のアジア会館を中心に実施された。

TBDCは書協が中心となり、ユネスコ国内委員会と緊密な連絡を取り合い設立準備が行われた。同センターのおもな事業は、①アジア地域の出版に関する調査研

26 —— ▶ Web12 「TIBE2002『日本年』実施報告書」(2002年6月) 同実行委員会

27 —— ▶ Web13 「サロン・ド・リール・ジュネス『日本年』実施報告書」(2004年3月) 同実行委員会

28 —— Tokyo Book Development Centreの略。

究、②アジア地域出版関係者に対する研修・便宜供与、③アジアを中心とした出版事情に関する刊行物の発行、④アジア諸国における共同出版の促進、⑤図書、出版資材などに関する国際展示会の開催、⑥翻訳事業の推進、⑦国際会議の開催など図書開発に関する国際交流の実施、などであった。初代理事長には、野間省一書協会長が就任した。

TBDCの事業は内外から高く評価され、とくにアジア諸国からの協力要請は一挙に増大し、同センターは財政・運営の両面で、すでに設立後数年の時点でそれらに十分こたえることが困難な見通しとなっていた。その折、「アジア地域の文化交流を促進するとともに伝統文化の保存・活用に協力」することを目的とする財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU²⁹)が、71年4月28日に設立された。

このACCUとTBDCを合併させることが、財政・運営面でも効率的ではないかとの機運が関係者の間で高まり、71年3月のTBDC理事会において、1年以内のなるべく早い時期にACCUと合併することが確認された。TBDCは71年7月をもって解散し、その事業はすべてACCUによって引き継がれた。出版界は、その後もACCUの事業に対し、講師派遣などにより協力している。

ACCUでは、TBDCから引き継いだ出版技術研修コースをはじめ、アジア地域の出版関係者の来日支援、アジア地域における共通読み物共同出版、さらには78年からは野間国際絵本原画コンクールなど、アジア地域の出版活動の促進のために数多くの有意義な事業を展開している。出版研修コースで学んだアジア各国の研修生は、その後、それぞれの国の出版界を担う重鎮となっている。たとえば、第1回研修コースに参加したインドのディナ・N・マルホトラ氏は、その後、インド出版協会の会長も務めており、また、後述のアジア・太平洋出版連合の設立メンバーでもある。

B-2 APPAの設立と活動

❖アジア出版界の連携

1992年(平成4)1月に開催されたIPAニューデリー大会の折に、アジア出版界を横断した組織を設立しようという機運が高まった。この構想について服部敏幸書協理事長は、92年10月にフランクフルトで開催されたIPA常任理事会において、改革・開放を進めている中国をはじめ発展途上の国が多いアジアの事情があり、その共通の問題を検討するためにアジア地域の出版団体が必要であること、IPAとは別個の組織となるが対立するものではないことなどを説明し、IPAの理解と支持を得ることができた。

92年11月に東京・池袋で開催された「東京国際ブックフェア1992」の際に、「アジア出版フォーラム」が開催され、アジア・太平洋出版連合(APPA)設立についての提案が行われた³⁰。フォーラムでは三浦朱門氏が基調講演を行い、また、国際図書館連盟のR・ウェッジワース会長が特別講演を行った。また、アジア各国の出版協会代表が、それぞれの国の出版状況を報告した。APPAの設立合意書には日本を含む11か国が署名し、94年1月に千葉・幕張メッセで開催された「東京国際ブックフェア1994」の際に、設立総会が開催された。設立に参加したのは、日本を含む12か国の出版協会(バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、ベトナム。設立合意に参加したマレーシアは、国内調整が必要のため当面オブザーバーにとどまる)、会長には服部書協理事長が選出され、また、実務者会議議長には前田完治常任理事(書協国際委員会委員長・三修社)が選ばれた。前田常任理事は、APPAの創立・運営に際して中心的な存在として、この組織の発展に尽力した。また、APPA事務局は書協が担当することになった。

APPAはアジア太平洋地域の出版産業の推進と開発、問題解決に向けた加盟国間の相互支援、積極的な出版文化の交流を目的としたアジア唯一の出版国際組織として立ちあがり、そのおもな事業として、APPA出版賞の創設、APPAフォーラムの実施などが合意された。APPAには、その後、95年にオーストラリア、モンゴル、96年にニュージーランド、97年にはパキスタンが加盟、また、99年にはパプア・ニューギニア大学出版局が準会員として加盟した³¹。

96年、APPA会長は服部氏から渡邊隆男書協理事長に引き継がれた。98年1月は、TIBFの「日本におけるフランス年」、日仏出版人会議、IPA東京著作権シンポジウムとの同時開催でめまぐるしい日程をこなしたが、APPAではフランス出版協会からジャン・サルザナ事務局長を迎え、「アジア太平洋地域における国際図書展運営成功への鍵」と題して出版フォーラムを開催した。

❖各国持ち回りで総会開催

APPAは、設立から1998年までは毎年のTIBFの折に東京で開催されていたが、99年からは加盟各国が交代で総会を開催することになった。99年はシドニーのオーストラリア・ブックフェアを機に開催され、CAL(Copyright Agency Limited)代表のマイケル・フレイザー氏らをスピーカーに迎え、著作権セミナーが開かれた。

29—— Asia Cultural Centre for UNESCOの略。《www.accu.or.jp》1993年に Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCOに改称。

30—— Web14 「『アジア・太平洋出版連合』の設立に関する合意書」(1992年11月1日)

31—— APPAホームページ:www.appa21.org

2000年には、会長が日本の渡邊隆男理事長から大韓出版文化協会(韓国)のナ・チュンホ会長に引き継がれ、事務局も韓国に移った。同年、北京でのAPPA出版フォーラムでは、「IT時代の著作権保護と出版界のあり方」と題して、中国・韓国の代表とともに、日本からは文化庁著作権課の遠藤健太郎氏が講演した。01年ソウルブックフェアにおけるAPPA総会では、APPA各国代表が青瓦台(Blue House)に金大中大統領を表敬訪問し、渡邊隆男会長から日本の再販制度の存続決定が報告されると、大統領よりAPPA出版フォーラムに提出された日本における再販制度議論の報告書を所望され、意見交換がなされた。続く02年バンコクでのタイ・ナショナルブックフェアでは、シリンドン王女が出席して開会式が行われ、APPA出版フォーラムでは「出版産業の発展における政府の役割と出版者の努力」について、各国の議論が交わされた。総会はシドニーを皮切りに、以後、北京、ソウル、バンコク、ニューデリー、マニラ、イスラマバード、デンパサール(バリ島)と引き継がれ、07年総会はベトナムで開催された。07年総会では、マレーシアとブルネイが新たに加盟し、加盟国は全部で16か国となった。日本からは金原優副理事長(国際委員会担当)が代表として、また国際委員会から新田満夫国際委員長(雄松堂出版)、黒須雪子国際副委員長(二玄社)が数回の総会に参加している。また、実務者会議には樋口清一書協調査部長が出席している。

設立当初こそ、日本の主導で総会開催においても書協および日本政府関係機関などの財政的援助に頼っていたが、加盟各国での総会開催を機に、自立した国際団体としてアジア・太平洋地域の出版文化の情報交換、出版文化保護のための国際協力の拠点として発展している。

95年に始まった「APPA出版賞」も10回を数え、毎年、学術・専門書、児童書、文学・一般書の3部門でアジア・太平洋諸国間の優れた翻訳出版・共同出版を表彰し、この地域における出版活動の振興をはかっている³²。